



TAGAMI

TAGAMI TOWN 6TH MASTER PLAN 2022~2031

第6次田上町総合計画

基本構想

序章	3
第1章 基礎調査・意向調査	4
第2章 将来フレーム	12
第3章 まちづくりの課題	13
第4章 まちづくりの理念・目標	16
第5章 土地利用構想	19

まちづくりの理念

あなたの**願い**がまちをつくり、
あなたの**想い**がまちを変える。

第6次総合計画では誰もがずっと住み続けたいという田上町になるように、「誰もが安心して暮らせる」、「安心して子育てできる」、そして「自然豊かで活力ある」という3つの視点で町を発展させ、町民の暮らしを豊かにするために、みんなで力を合わせ、みんなとまちづくりを進めます。

まちの将来像

誰もが **ずっと住み続けたい** まち たがみ

田上町で生まれ育った若い世代がこれからも住み続けたいと思い、みんなで子どもたちを守り、育て、高齢者がいつまでも元気で活躍できる。そして、田上町に住むすべての方の笑顔があふれる町を目指します。

まちづくりのテーマ

このまちに住む **みんなの笑顔** のために

田上町に住むすべての方の笑顔があふれる町にするため、町民のみなさまが「夢」や「希望」を自由に追い求めることができる環境をつくります。

序章 計画の概要

計画策定の趣旨

総合計画とは、田上町の将来像やその実現のための主要な施策等を示す総合的なまちづくりの指針として策定する、田上町における最上位計画です。

町では、平成24年度～令和3年度を計画期間とする第5次総合計画に基づき、これまでまちづくりに取り組んできました。

この間、人口減少・少子高齢化、激甚化する災害対応、そして、新たな感染症の流行など町を取り巻く環境は大きく変化しています。

第6次計画の策定にあたっては、これまでのまちづくりの成果と課題を十分踏まえるとともに、今後の時代の潮流や町を取り巻く環境等を見通した検討を行い、持続可能なまちづくりの視点を取り入れたものとしします。

総合計画とは

自治体の最上位計画であり、行政すべての分野における基本となる計画です。

総合計画は、町が目指す都市像の実現に向けて、総合的、計画的なまちづくりを推進するための指針であり、町民・事業者・行政がそれぞれの役割を担いながら、参画・協働してまちづくりに取り組むための指針となるものです。

総合計画の構成と期間

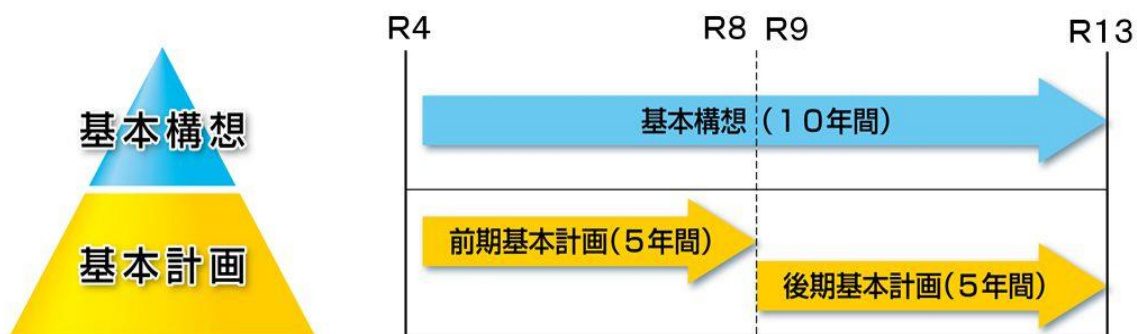
第6次総合計画は、基本構想と基本計画（前期・後期）の2層構成の計画として策定します。

基本構想 【計画期間：令和4年度～13年度（10年間）】

長期的な展望に立ち町が目指す将来像と、それを実現するための分野別目標、施策の方向を示します。

基本計画 【計画期間：前期 令和4年度～8年度（5年間）／後期 令和9年度～13年度（5年間）】

基本構想の実現に向け、まちづくりを進めていくための分野別の取り組みを示します。また、時代とともに変化する社会情勢に対応するため、前期と後期に区分して策定します。



第1章 基礎調査・意向調査

現状分析の結果

項目	状況
地勢	・町域は31.71km ² でコンパクト（新潟県内で4番目に小さい）。
人口	・人口は平成12年の13,643人をピークに減少、令和2年現在11,227人。 ・人口の自然動態、社会動態はともにマイナス。 ・高齢者の人口が増加し令和2年には総人口の37.7%となる（県平均32.5%を上回る）。
就業	・就業者は町内流入数よりも町外流出数が多いベッドタウン※。 ・流出先は新潟市、三条市、加茂市。流入元は加茂市、新潟市。
産業	・町内居住の就業者数は平成7年をピークに減少。 ・農業：農家数、経営耕地面積は減少傾向。 ・工業：従業者数、出荷額等は平成24年以降増加傾向。 ・商業：販売額、従業者数は平成24年以降増加傾向。
観光・交流	・観光入込客数は減少傾向で年間40万人程度。 ・湯田上温泉、護摩堂山などの観光資源のほか、令和2年10月には新しいまちづくりの拠点となる「道の駅たがみ」が開業。
都市基盤	・JR信越本線と国道403号が町中央部を南北に縦断。 ・国道403号バイパスが令和2年に開通し、新潟市中心部まで連絡。 ・市街地、集落ともに空き家が多くみられる。
生活	・最寄品※の買物利用地は新潟市、加茂市、町内がそれぞれ3割弱で同等。 ・公共交通はバス3路線、鉄道駅が2箇所整備、公共交通空白地あり。
教育	・令和3年現在、小学校2校（26学級）、中学校1校（12学級）。 ・町立認定こども園（竹の友幼稚園）と私立幼稚園が1園ずつ立地。 ・令和元年9月に新しい生涯学習施設「田上町交流会館」、令和3年3月に地域資源活用機能を有する「田上町地域学習センター」がオープン。
医療・福祉	・診療所（内科・歯科）が10件分布。総合病院は新潟市と加茂市に依存。 ・高齢者福祉施設は、特別養護老人ホームをはじめ複数の施設が分布。
特産品	・米、野菜、果樹等の生産が盛ん。特に筍、梅、桃が有名で加工品も販売。
歴史・文化	・町内には、12件の指定文化財（国2件、県2件、町8件）が分布。 ・越後の七不思議の一つである「ツナギガヤ」が国の天然記念物に指定。
財政	・町の普通会計予算は44億円程度。財政力指数※は県平均（0.502）を下回る0.404。 ・自主財源（約12億円）を義務的経費（約18億円）が上回る。 ・令和元年度決算では、健全な財政状況と判断されている。

【注釈】

※ベッドタウン：大都市の近郊にあって大都市への通勤者の居住地となっている都市（町）。

※最寄品：消費者が、特別な努力を払わずに頻りに購入する製品（洗剤、雑誌、菓子、パンなど）。

※財政力指数：地方公共団体の財政基盤の強さを示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。

時代の潮流

■人口減少の進行

わが国の人口は減少に転じており、出生数の減少等を背景に、今後も減少し続けることが想定されています。この動きは特に地方部において顕著となっており、人口減少による過疎化・空洞化やコミュニティ機能の低下、消費・経済力の低下を招き、地域の財政や活力に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

町を取り巻く状況

- 町の人口は県平均を上回るペースで減少している。(平成22～令和2年の10年間で、県が約7%減、町が約12%減)
- 町としては人口減少対策を大きな課題として認識。人口減少を少しでも抑制し、10年後・20年後でも町を存続させるべきと考えている。
- 人口定着には子どもを減らさない努力が必要。子育て世代の流出を抑えるとともに、町と地域が一緒になって「安心して子育てができる環境づくり」を行うことが重要である。

■超高齢社会※の深化

人口減少の進行とともに、わが国では高齢化も進行しています。平成22年に、我が国の高齢化率が23%となり超高齢社会に突入しました。令和2年現在、高齢化率は28%を超え、さらに深刻化しています。

町を取り巻く状況

- 町の高齢化率※は県平均を上回る37.7%（令和2年）で、今後も高齢化率は増加する見込み。
- 高齢者単身世帯や高齢者のみ世帯が増加しているが、地域を中心とした「互助※」による社会福祉が重要と考えている。
- 一方で、元気な高齢者が活躍する場として、「道の駅たがみ」、田上町交流会館、地域学習センターを活用することが必要である。

【注釈】

※超高齢社会：65歳以上の高齢者の割合が「人口の21%」を超えた社会。

※高齢化率：65歳以上の高齢者の総人口に占める割合。

※互助：家族・クラブ活動仲間など、個人的な関係性を持つ人間同士が助け合い、それぞれが抱える生活課題をお互いが解決し合うこと。

■ デジタル社会の到来

情報通信の基盤が令和2年から5G※に移行し始めました。私たちの暮らしはICT※をめぐる高速化・大容量化の大きな変化の途上にあります。政府は、IoT※、AI※、ビッグデータ※などの情報や技術を取り入れた「Society5.0※」を提唱しています。

町を取り巻く状況

- 平成27年策定の総合戦略や第5次総合計画では教育分野等でICTに触れているが、町としてはこれまでICTを活用したまちづくりよりも先に対応を優先すべき事項があった。
- 町立小中学校では、令和2年度にGIGAスクール構想※の実現に向けた1人1台端末（タブレット）及び通信ネットワーク環境の整備を行った。
- 今後のまちづくりでは、デジタル社会の動きに合わせて行政のデジタル化により町民への質の高いサービスの提供が必要になる。

■ 大規模自然災害への強靱化対策

平成23年に発生した東日本大震災や県内で平成16年に発生した新潟県中越地震のほか、近年は集中豪雨による土砂災害、大型台風による風水害被害などの大規模自然災害が全国で多発しています。国は「国土強靱化基本計画」を策定し、災害に対する強靱な国づくりを推進しています。

町を取り巻く状況

- 町としては、調整池の整備や河川整備などを進め、できる限りのハード整備を行っている。
- また、ハザードマップ※の作成と周知、防災無線の整備、シェイクアウト訓練※などのソフト対策も進めている。
- 防災に関しては公助※も必要だが、それ以上に自主防災組織を中心とした自助※・共助※が重要であり、町民に意識の醸成をしたい。

【注釈】

※5G：第5世代移動通信システム。「高速大容量」、「高信頼・低遅延通信」、「多数同時接続」という3つの特徴を有する。

※ICT：「Information & Communication Technology」の略。コンピューターやネットワークなど、情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称。

※IoT：「Internet of Things」の略。従来の情報通信機器だけではなく、あらゆる物がインターネットにつながることで実現する新たなサービスなどの総称。

※AI：「Artificial Intelligence」の略。コンピューターが学ぶことにより、人間の知的活動に活用されるような知能（人工知能）。

※ビッグデータ：従来では活用が難しかった非構造化データ（動画や音声、テキストなど）やリアルタイム性のある巨大なデータ群データの蓄積。

※Society5.0：AIやロボットの力を借りて、人間がより快適に活力に満ちた生活を送ることができる社会。我が国が目指す未来社会。

※GIGAスクール構想：小・中・高等学校などの教育現場で、児童・生徒各自がパソコンやタブレットといったICT端末を活用できるようにする取り組み。

※ハザードマップ：水害や土砂災害などによる被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。

※シェイクアウト訓練：あらかじめ決められた日時に、事前に参加登録した人が、「訓練開始」を合図に、その時いる場所で、一斉に命を守る動作を行う訓練。

※公助：自助・互助・共助では対応できないこと（困窮等）に対して、最終的に行政（公）が必要な生活保障を行うこと。

※自助：災害が発生した時に、まず自分自身の身の安全を守ること。

※共助：地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。

■ 地方財政状況の深刻化

地方分権の進展に伴い、自治体の果たす役割と負担が大きくなっています。こうした中、生産年齢人口の減少に伴う税収の減少の一方で、高齢化の進展による社会保障費や公共施設の経年劣化によるインフラ施設の維持管理費など多額の財政需要が発生し、地方の財政状況は厳しさを増しています。

町を取り巻く状況

- 町の財政は毎年「健全」と判断されているものの、人口減（生産年齢人口減）による町税の減収、高齢化の進展による社会保障費の増大などで厳しい状況となっている。
- 税収増のためにも、本田上工業団地への企業誘致の必要がある。
- 今後は公共施設の集約や廃止など、思い切った行政投資を考える必要がある。

■ 感染症の世界的流行

令和元年末に確認された新型コロナウイルスの感染症は、瞬く間に全世界に広がり、世界規模の大きな経済損失と数百万人規模の命が失われています。

町を取り巻く状況

- これまで町内では数名の新型コロナウイルス感染者が出ているが、大規模な感染拡大、クラスターの発生には至っていない。
- 町長が「町民の皆様へのお願い」を発信するなど、町民に対する情報提供を随時行っている。
- 今後は「新しい生活様式[※]」の定着を図り、感染症と共生するまちづくりが必要である。

■ 持続性のあるまちづくり

わが国の人口は、短い期間では高齢者人口の増加、生産年齢人口及び年少人口の減少により人口構成比が大きく変わっていきませんが、長い期間では令和24年をピークに高齢者人口も含めすべての年齢層において人口が減少していくと見込まれています。

そのため、労働力人口の減少や消費市場の縮小などによる経済規模の縮小が懸念されるとともに、町民生活に不可欠なサービスを維持していくための人員も減少し、提供し続けることが難しくなることも懸念されます。

町を取り巻く状況

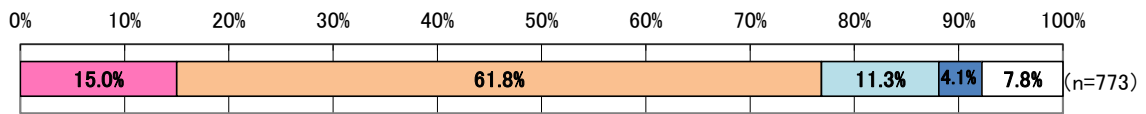
- 町では、令和7年をピークに高齢者人口も減少に転じる推計となっている。
- 人口の減少が進むことにより、店舗や診療所などの日常生活に関わるサービスの提供が困難になったり、地域を支えてきた産業で従業者の確保などが難しくなったりすることが懸念される。
- 日常の暮らしの質や経済、産業活動を維持していけるまちづくりが必要となる。
- 将来の人口規模に合わせた行政サービス提供について検討する必要がある。
- 町民の多様化したニーズに対応し町政を発展させるためにも、町民との協働によるまちづくりを進めていくことが重要となる。

【注釈】

※新しい生活様式：新型コロナウイルス感染症の感染対策として、示される日常生活の実践例。3密回避、マスク着用、手洗い徹底など。

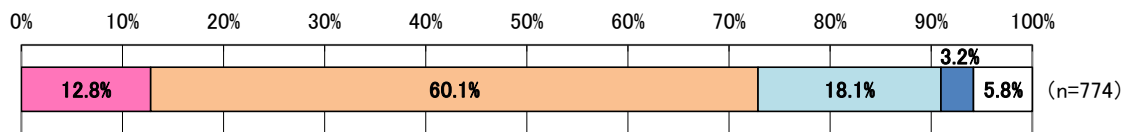
アンケート調査の結果（抜粋）

問5 田上町に愛着を感じていますか？【1つだけに○】



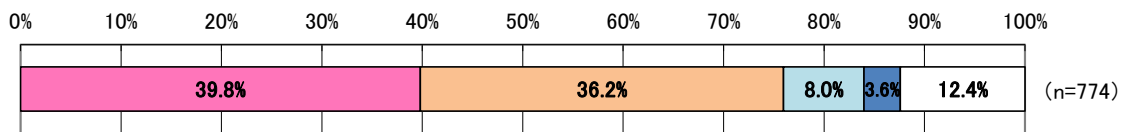
□強い愛着を感じている □ある程度愛着を感じている □あまり愛着を感じていない □愛着を感じていない □どちらともいえない

問6 田上町は住みやすい町だと思いますか？【1つだけに○】



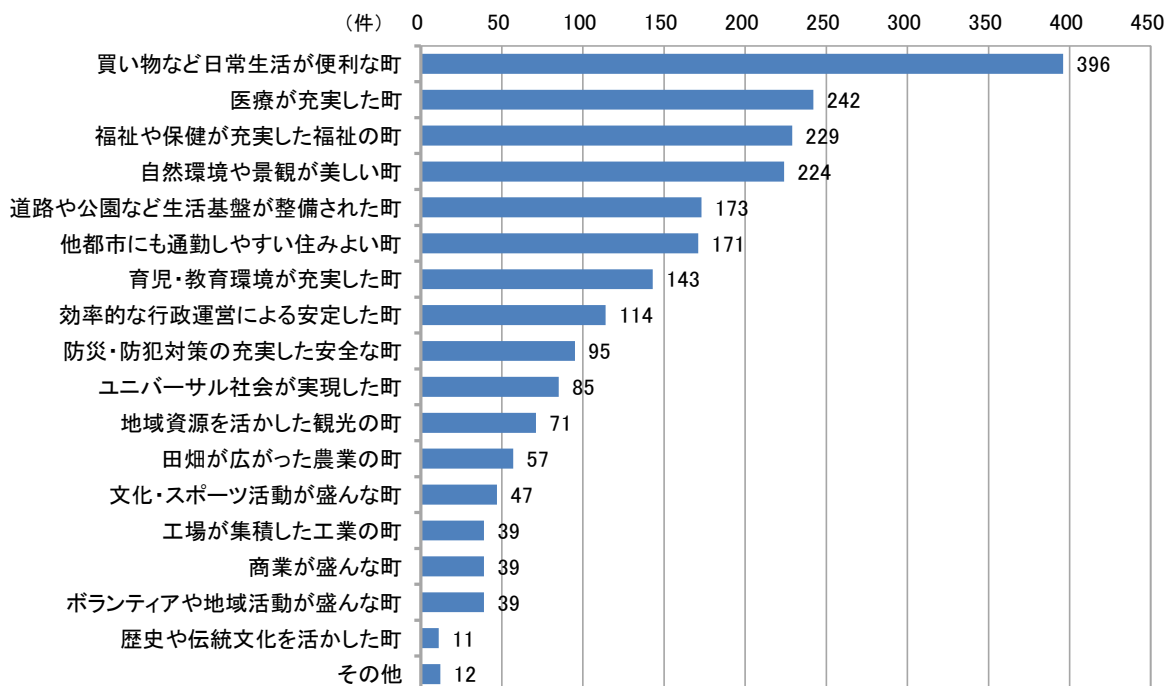
□とても住みやすい □どちらかといえば住みやすい □どちらかといえば住みにくい □とても住みにくい □わからない

問7 田上町に10年後も住み続けたいと思いますか？【1つだけに○】



□住み続けたい □どちらかといえば住み続けたい □どちらかといえば住み続けたくない □住み続けたくない □わからない

問9 あなたは田上町が将来どのような町になってほしいと思いますか？【3つまで○】

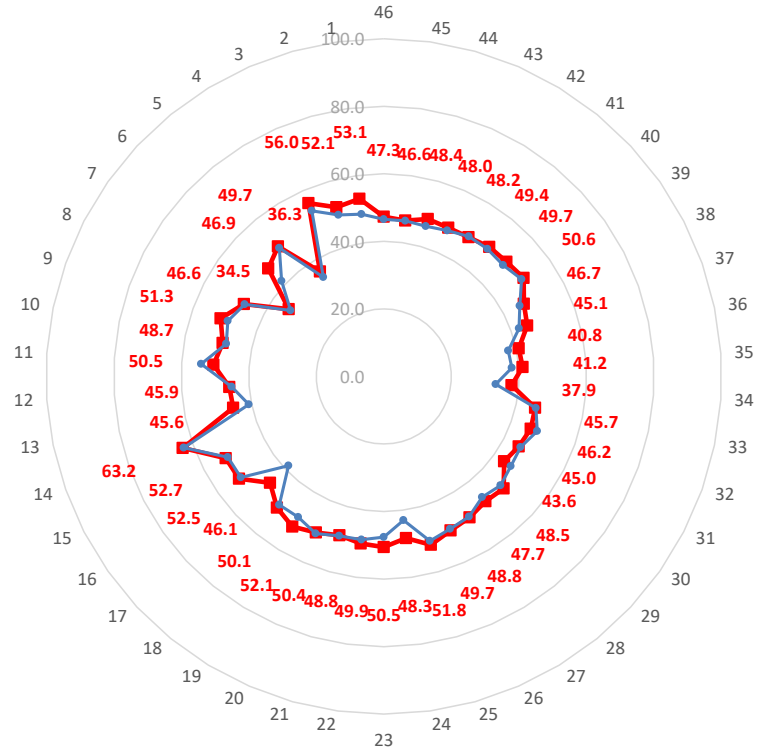


問11 各分野の満足度と重要度

満足度

■ R02満足度(平均:48.0)
 ● H28満足度(平均:46.6)

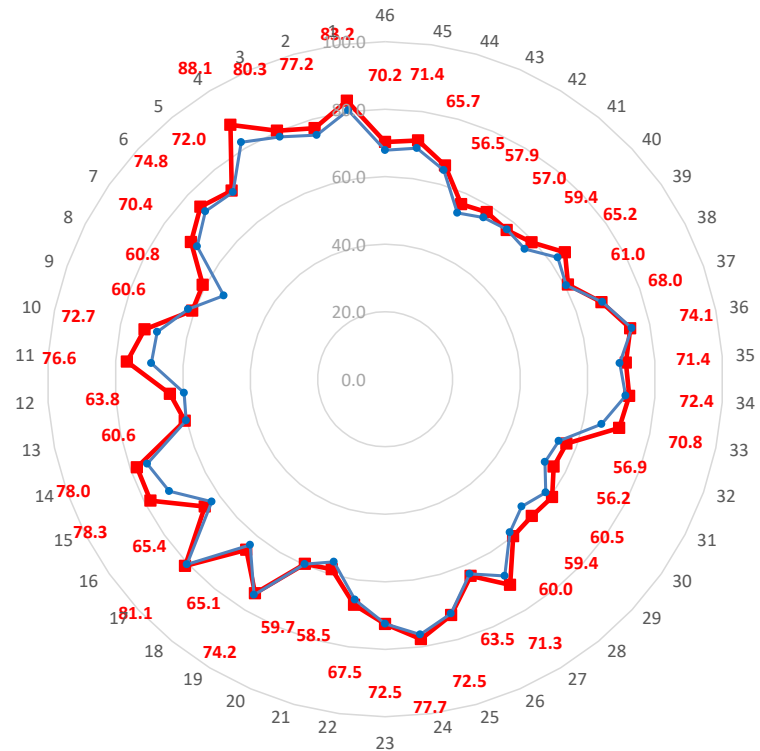
※「満足」:100点、「普通」:
 50点、「不満」:0点で集計
 し、その値を回答者数で除
 した点数(平均点)



重要度

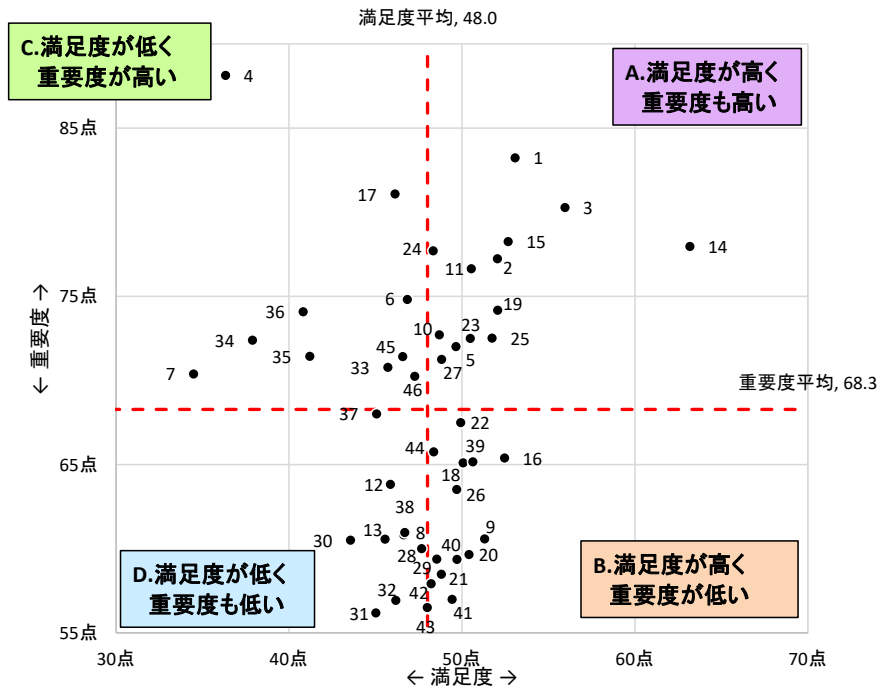
■ R02重要度(平均:68.3)
 ● H28重要度(平均:66.1)

※「重要」:100点、「普通」:
 50点、「重要でない」:0点
 で集計し、その値を回答者
 数で除した点数(平均点)

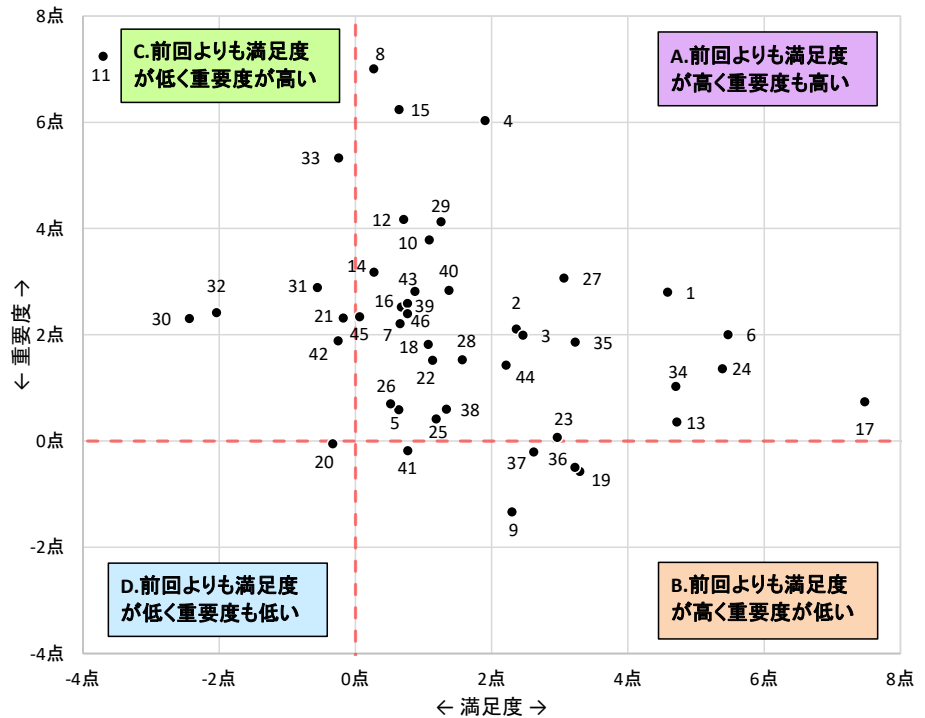


1. 防災対策の充実 2. 河川の整備 3. 消防・救急体制の充実 4. 雪対策の強化 5. 交通安全・防犯対策の強化 6. 道路の整備
7. 公共交通の充実 8. 情報ネットワークの活用 9. 自然環境の保全と景観形成 10. 排水処理・し尿処理の充実
11. ごみの減量化・リサイクルの推進 12. 土地利用対策と住環境の整備 13. 公園・緑地の整備 14. 水道の安定供給
15. 保健事業の充実 16. 健康づくりの推進 17. 地域医療の充実 18. 長寿時代のまちづくり 19. 高齢者福祉の充実
20. 高齢者の生きがいづくり 21. 福祉風土の醸成 22. 障害者福祉の充実 23. 児童・母子(父子)福祉の充実 24. 社会保障の充実
25. 幼児教育の充実 26. 家庭・地域との連携 27. 学校教育の推進 28. 生涯学習の条件整備 29. 主体的な学習活動の支援
30. 生涯スポーツの推進 31. 芸術・文化の振興 32. 文化財と伝統芸能の継承 33. 農林業の振興 34. 商業・サービス業の育成
35. 工業の育成と企業誘致の推進 36. 雇用労働対策の強化 37. 観光の振興 38. 地域資源を活用した活動の促進 39. 人権の尊重
40. 男女共同参画の推進 41. コミュニティ活動の促進 42. 町民活動の充実 43. 多様な交流の推進 44. 行政運営の充実
45. 健全な財政運営の推進 46. 広域行政の推進

満足度と重要度のクロス散布図

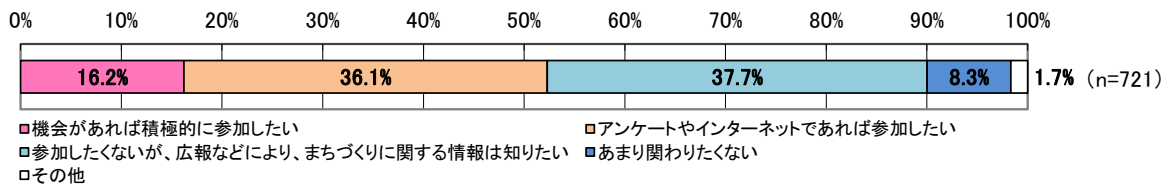


前回 (H28) 結果との比較



問22 町民の皆さまと行政とがまちづくりのために力を合わせて進めていく機会や、行政から町民の皆様にご意見を聞く機会があった場合、あなたは参加したいと思いますか？

【1つだけに○】



まちづくりワークショップで頂いた「まちでの小さな困りごと」(抜粋)

防災・都市基盤・生活環境

- ▲ JR 利用したいけど駅まで行くのが大変 パーク&ライドできたらいいな
- ▲ バスの本数が少ない
- ▲ 空き家が増えていく
- ▲ ゴミの出し方
- ▲ 冬場の除雪
- ▲ 消雪パイプがない場所がある
- ▲ 駅前に駐車場がない
- ▲ 自転車があぶない!
- ▲ 駐車場の少ない施設・店が多い
- ▲ 空き家
- ▲ ゴミ処理場
- ▲ 坂道が多い…凍ると大変
- ▲ 買い物が不便
- ▲ 駅前開発
- ▲ 駅前に商店が少ない
- ▲ 夜暗い
- ▲ 散歩道
- ▲ 車がないと行動しづらい

保健・医療・福祉

- ▲ 年寄りのお茶のみ場
- ▲ 医院数 (医者数)

教育・生涯学習・芸術文化

- ▲ 中学校の登下校のこと 小学校は歩いて行けるけど…
- ▲ 学校にお金をかけてない
- ▲ 体育館老朽化
- ▲ 古い体育館
- ▲ 各種講座・教室のニーズ
- ▲ スポーツ活動
- ▲ 駅伝、町内一周等、下火になる
- ▲ 運動会がない
- ▲ 広場 (単なる広場) (芝)

産業・交流

- ▲ 竹林の放棄
- ▲ 就農者の減少
- ▲ 田
- ▲ 山
- ▲ 雪
- ▲ 害獣 (イノシシ・サル) ジビエ…?
- ▲ からすが多い
- ▲ ゆったり館への看板が弱い 護摩堂山頂トイレが汚い
- ▲ 働く場所が少ない
- ▲ 道の駅の魅力がうすい
- ▲ 遊園地
- ▲ イベント少ない
- ▲ 大きい祭りが無い
- ▲ 名物不足
- ▲ 観光・各所の情報が不足
- ▲ 産物 (名品) の活用方法を再考すべき

町民参加・行財政

- ▲ 地域の営み方向性 (田上地区・羽生田地区)
- ▲ 情報がわかりづらい
- ▲ 情報不足
- ▲ 施設の利用情報が少ない
- ▲ 地域住民のつながりが弱い
- ▲ 旧田上役場の跡地再利用
- ▲ 羽生田駅周辺の町づくり 田上農協跡地
- ▲ 本田上工業団地の空地どうする

人口問題

- ▲ 子どもの数が少ない
- ▲ 子どもが遊んでいない
- ▲ 少子化
- ▲ 高齢者世帯の増加
- ▲ 子育て世代の減少
- ▲ 若者少ない
- ▲ 近くは何をする人ゾ
- ▲ 知る人ぞ知る
- ▲ つながりが少ない

第2章 将来フレーム

第6次田上町総合計画の目標年次である令和12年における人口を想定します。

これまでの人口推移

町の人口は、平成12年の13,643人をピークに減少に転じ、平成27年で12,188人、令和2年で11,227人となっています。

ここでは、別途作成する「田上町人口ビジョン」に基づき、町の将来人口を設定します。

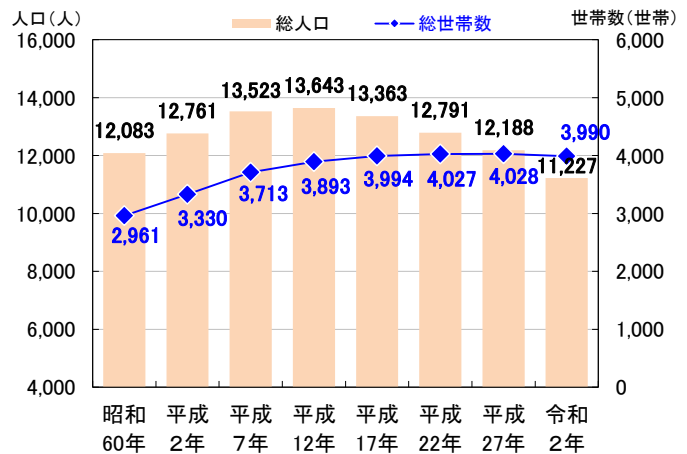


図 町の人口推移

将来人口推計

■平成27年人口ビジョンと令和2年までの人口（実績）を比較しての評価

令和2年10月1日時点での町の人口（令和2年国勢調査）は11,227人で、平成27年人口ビジョンの11,579人に対して352人下回っており、社会保障・人口問題研究所の推計人口（平成30年版）11,474人に対しても247人下回っています。

20～34歳において、人口の純移動（転入と転出の差）が人口ビジョンの設定値より抑制できませんでした。他の年代においては、想定内もしくは想定より減少しなかったことにより、結果として全体の減少幅が抑えられています。

■次期人口ビジョンの設定の考え方

若年層、特に20～30歳代の人口を減らさない、純移動の改善に努め、このまま何もしないで推移した場合よりも2065年（令和47年）でおおよそ2,400人多い6,822人で食い止めることを目標とします。この推計で令和12年時点では、約500人多い10,416人を目指します。

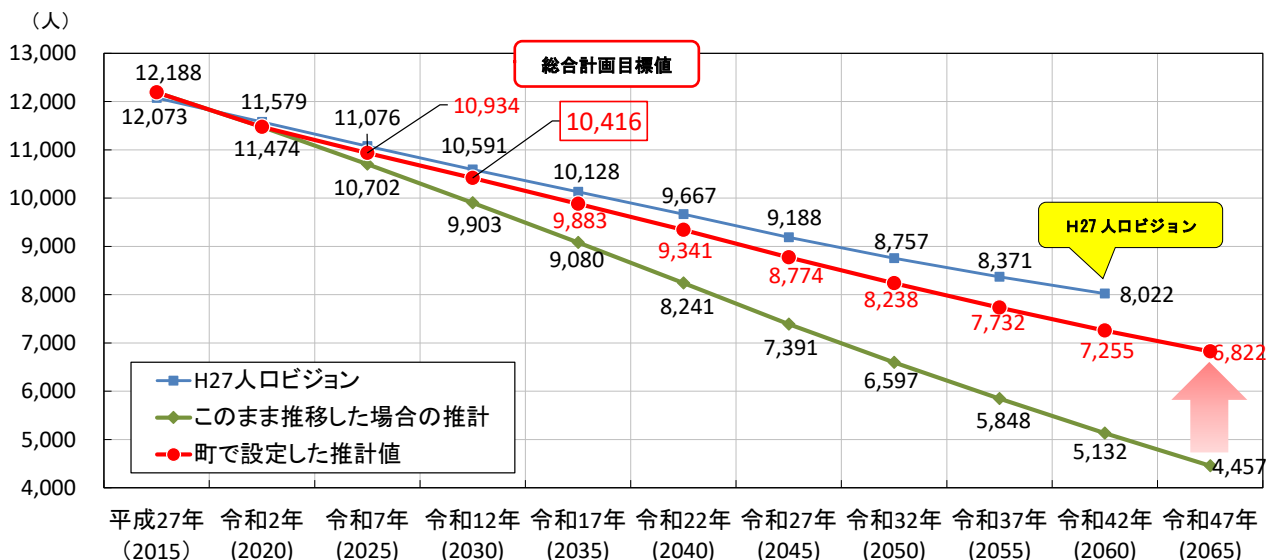


図 人口ビジョンによる町の人口推計

第3章 まちづくりの課題

現況調査や町民アンケート調査の結果、まちづくりワークショップでの意見等をもとに、まちづくりの課題を6つの分野別に整理します。

防災・都市基盤・生活環境

●災害に対する強靱化

町の広い範囲や区域で浸水想定区域[※]や土砂災害警戒区域[※]が指定されています。災害発生時に、防災行政無線を活用しながら的確な情報を提供し安全な避難を誘導するなど、今後起こりうる災害に対して強靱に対応していくことが必要です。

●生活利便の改善

町民アンケート調査の結果をみると、買い物環境や移動手段など、日常生活で満足感が得られていないものがみられます。また、まちづくりワークショップの中でも、買い物の不便さが町での困りごととして挙げられました。

町民が幸せを感じるまちを目指し、これら日常生活上の根幹的な課題を解決することにより、町民の満足度を高めていくことが重要だと考えます。

●市街地・集落の空洞化

町内の住宅地や集落で空き家が目立ち、近年は増加しています。空き家の顕在化は、地域コミュニティの希薄化や防災・防犯など、地域の安全や秩序などにも影響を及ぼすおそれがあります。このため、空き家の有効活用等をみんなで検討することが必要です。

保健・医療・福祉

●高齢者が安心して生活できる環境づくり

今後も元気な高齢者が増加するものと考えられており、リタイア層が心身ともに健康で生きがいを持って暮らすことができる環境づくりも重要です。その一つの視点として、これまでの公助・共助に加えて、お互いに支えあう「互助」を中心とした社会福祉の形成も重要です。一方で、高齢化の加速により、社会保障費の増加が懸念されます。

●新しい生活様式の定着

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。私たちの健康を守るため、今後起こりうる他のリスクも想定した地域の医療体制の維持確保と感染拡大を抑制する新しい生活様式の定着を図ることが必要です。

●子どもを産み育てる環境の改善

町の合計特殊出生率[※]は新潟県内で最も低いレベルであり、人口減少の一つの要因となっています。結婚・出産・子育て世代の流出抑制にも対応していくことが必要です。

【注釈】

※浸水想定区域：河川の氾濫により、住宅などが水につかるなど、浸水が想定される区域。

※土砂災害警戒区域：土砂災害（かけ崩れ、土石流、地すべり）により、住民の生命及び身体が被害を受けるおそれがある区域。

※合計特殊出生率：15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す数値。

教育・生涯学習・芸術文化

●田上への愛着を育む教育の充実

町民アンケート調査の結果をみると、町内に住み続けたいと考える割合は高いものの、現状では転出超過の状態が続いています。この状況を改善するため、「田上の12か年教育」を通じて地域に愛着を持ち、また子育て中の親をはじめ地域の大人たちがみんなで子どもを育てることを通じて、田上への郷土愛を持ち続ける子どもを育成していく必要があります。

●新たな生涯学習施設の活用

町の生涯学習に関しては、これまで「継続できる学習環境の整備」や「学習施設の機能充実と既存施設の有効利用」といった課題を抱えていました。今後は、近年オープンした「田上町交流会館」と「田上町地域学習センター」を拠点に生涯学習の充実や継続性を確保するとともに、超高齢社会が深化する中でも、高齢者同士の交流をはじめ多世代間の交流や活躍の場としてもこれら施設を有効に活用していく必要があります。

産業・交流

●各種産業の活性化と就業環境の改善

町において従業者数の多い卸売業・小売業、製造業の売上は、平成24年以降増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により状況は大きく変わってきています。消費者意識の変化もありますが、業種や事業所によって影響の度合いは様々であることから、町の各産業の状況の把握に努めなければなりません。

こうした中、「工業の育成と企業誘致の推進」や「雇用労働対策の強化」など、産業や就業に関する町民の意向は高い状況にあります。国道403号バイパスの開通や「道の駅たがみ」のオープンを契機に、町の産業の活性化に資する他にはない独自の取り組みをみんなで実践することが重要だと考えます。

また、これからの町の各種産業の活性化について、地域経済の循環を意識し、研究していく必要があります。

●「道の駅たがみ」を核とした来訪者の誘導

町への観光入込客数は徐々に減少する傾向にあります。交流人口の拡大が今後の地域活性化に大きく寄与するものと考えられていますが、令和2年10月にオープンした「道の駅たがみ」はそれ自体が主要な観光資源となるほか、町内に分布する様々な観光資源への誘導の拠点としても機能すべき施設です。「道の駅たがみ」を交流人口拡大の起点として活用し、にぎわい創出と地域活力の向上につなげる必要があります。

●農業を継続するための環境整備

農業は町の重要な基幹産業であり、稲作のほか多くの農産物が生産されています。一方で、農家数の減少や高齢化など、農業をめぐる環境は厳しくなっています。経営基盤の強化や担い手の育成など、農家の方が安心して作物づくりが継続できる環境整備づくりが必要です。

町民参加・行財政

●みんなと決めてお互いの幸せを願うまちづくり

まちづくりワークショップでは、町での現状の課題として地域住民のつながりの弱さが挙げられました。また、行政からの情報不足を挙げる声もありました。

行政は、透明性を確保し情報共有を進めるとともに、町民と協働によりみんなで力を合わせて「みんなと進める」まちづくりを進めることが必要です。また町民は「人の幸せを願う心」を念頭に置き、ともに助け合う互助・共助により、持続性のある地域コミュニティを形成していくことが必要です。

●持続可能な財政運営

令和2年度の町の財政は「健全」と判断されています。厳しい財政状況が続く中、的確な行政投資により持続可能な財政運営に取り組むことが必要です。

人口問題

●人口減少下における持続性あるまちづくり

町の人口は、第5次田上町総合計画策定後の平成24年4月からこれまでの約10年間で、1割以上（約1,500人）減少しています。特に平成29年11月には、これまで維持し続けてきた1万2千人を割り込むこととなりました。また、高齢化の状況についても、65歳以上の高齢者人口の割合が令和2年時点で37.7%と、新潟県平均の32.5%を上回る勢いで進行しています。一方で、子どもの数は減少しており、まちづくりワークショップでも「子どもの数が少ない」という意見が課題として挙げられています。

このような状況下においても、みんなで知恵を出し合いながら、日常の暮らしの質や経済・産業活動を維持し、町民が幸せを感じ続けられるまちを追求していくことが必要です。

第4章 まちづくりの理念・目標

町長のまちづくりに対する想い ～この町に住むみんなの笑顔のために～

①町長インタビュー

(令和2年7月28日、令和2年8月7日に実施)

総合計画の策定に向け、町長のまちづくりに対する想いを『「新しい田上町」をつくる3本柱』を中心に聞きました。

■新しいまちづくりへの想いについて

①誰もが安心して暮らせる田上町

公共交通

・当初考えていた町内巡回バスは道半ばである。しかし、「道の駅たがみ」を拠点とする公共交通を改めて検討している。

防災・安全安心

・信濃川の堤防整備は終了している。内水対策として調整池の整備を進めており、五社川の整備も県に強く要望している。
・防災行政無線の整備・屋外スピーカー設置・戸別受信機の配布を実施した。それらを活用した訓練等の実施に向け準備を進める。

②安心して子育てできる田上町

子育て支援

・これまで学校給食費の多子世帯軽減助成、小中学校の空調設置の整備などの子育て支援策を行ってきた。子育て世代に対する支援により移住・定住につなげ、人口減を緩やかにしていきたい。

③自然豊かな活力あふれる田上町

買物環境

・町には商店街がないため、町民は新潟市秋葉区や加茂市のスーパーに行っている。本田上工業団地での商業施設出店が取り消しになったことは、期待が大きかっただけに残念に思う。
・「道の駅たがみ」には直売所やコンビニが入ることから、高齢者を中心とした町民の買い物の場としたい。

就業の場

・本田上工業団地への企業誘致活動を行っている。国道403号バイパスが開通したことで本田上工業団地の利便性が向上するので、今後に期待をしている。若者が魅力を感じる企業を呼び込むためにも、引き続き企業誘致活動を行っていかなければならない。
・今ある企業の魅力をPRしていくことも大事だと考えている。

「道の駅たがみ」・ 地域学習センター

・重点道の駅の機能として福祉が盛り込まれている。田上町交流会館や学習センター等の利用を通じて、高齢者の活躍の場、生きがいづくりにつなげていきたい。
・今後のこれらの施設をより多くの方に利用してもらうためにも、また、より多面的に活用してもらうためにも、ソフト面の充実が必要である。

交流人口・観光資源

・これまでは観光PRが不十分といわれてきた。道路の看板整備や、「道の駅たがみ」に入る情報発信施設でのPRを通して、町の観光資源や国道403号線沿線の商店に立ち寄ってもらえるようにしていきたい。

■人口減少について

- ・人口減少、少子化対策はこれからも必要。人口減少は仕方ない面もあるが、減少を緩やかにする必要はある。しかし、出生率を上げることは簡単なことではない。子育て世代に対する支援により移住・定住につなげ、人口減を緩やかにしていきたい。
- ・出生者数が少なくこのままいくといずれは学校の問題が出てくる。学校がなくなると地域の活力が弱まるおそれがあるので、そこまで至らないようにしたい。
- ・東京一極集中から地方回帰の波がコロナ禍で強まったと感じている。これをチャンスと捉え、町の住み良い環境をPRして移住・定住につなげていきたい。

■財政について

- ・財政状況を考えると、真に必要な事業を優先して的確な行政サービスを提供していく必要がある。

■「オール田上」に対する想いについて

- ・「オール田上」をキーワードにしてきたが、町民との対話が少なかったことを反省している。これからは町内への情報提供の充実など、ソフト面に取り組んでいきたい。
- ・本総合計画改定に際して、町民へのアンケート調査やワークショップの開催を予定している。様々な意見を聞き、参考にしたい。
- ・また、「道の駅たがみ」のさらなる活用方法など、庁内でも懇談会を定期的に行い、若手職員のアイデアを聞いたりしている。

■第6次総合計画の策定に向けて

- ・言葉だけでなく「オール田上」でまちづくりを進める状況をつくっていく。これからは、町民に説明するための機会を作らないといけない。
- ・まちづくりの3本柱「誰もが安心して暮らせるまちづくり」、「安心して子育てできるまちづくり」、「自然豊かな活力あるまちづくり」に取り組み、「10年後も誰もが住み続けたいまち」を目指して進めていきたい。

②所信表明等

(平成30年7月3日 町議会定例会にて)

分野	課題・対応策等
人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ・人口はこれまで維持してきた1万2千人を割り込む事態となった。この流れを食い止めることができていない。 ・田上町が消滅するようなことがあってはならない。 ・子育て世代の若い両親が田上に住んで良かったと思えるまちづくりが必要。
産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・バイパスの発展と旧国道沿道の個人商店等の経営の両立。 ・農業の振興、農家が安心して作物づくりができる環境整備。
「道の駅たがみ」の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく整備された施設が、どれだけ町のにぎわいや町民の利便性に効果を発揮するのか。
観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅たがみ」を拠点として、湯田上温泉や護摩堂山等他施設へ来訪者を誘導したい。
社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・自助、互助、共助、公助。特にお互いに助け合う「互助」を大切にしたい。
教育・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育て支援政策」や「田上の12か年教育」の補強と現行制度の見直し、強化を行いたい。

分野別目標

まちづくりの基本的な課題を解決し、将来像の実現に向けて取り組んでいく大きな方向性を示すものです。6つの「分野別の目標」及び「施策の方向」を設定します。

目標. 誰もが安心して暮らせるまち

- 【施策の方向】
- (1) 安全な生活の確保
 - (2) 環境にやさしいまちづくりの推進
 - (3) 快適な住環境の整備

目標. 安心して健やかにすごせるあたたかいまち

- 【施策の方向】
- (1) 保健・医療の充実
 - (2) 高齢社会対策の充実
 - (3) あたたかな福祉の推進

目標. 集いと学びで希望あふれるまち

- 【施策の方向】
- (1) 子ども達への教育
 - (2) 生涯学習の推進
 - (3) 芸術・文化の振興

目標. 交流とにぎわいで活力あふれるまち

- 【施策の方向】
- (1) 農林業の推進
 - (2) 商工業の育成
 - (3) 地域資源を生かした産業の促進

目標. きずなと協働でつながるまち

- 【施策の方向】
- (1) 町民参加の基礎づくり
 - (2) 町民の参加・交流の促進
 - (3) 効率的な行財政の推進

目標. 10年後も誰もが住み続けたいまち

- 【施策の方向】
- (1) 人口問題への対応
 - (2) 情報の共有及び提供

第5章 土地利用構想

土地利用のあり方

町域の土地は、町民にとって生活や生産活動を支える共通の基盤です。この限られた資源を効率的・効果的に利用しながら、次の世代に引き継ぐ必要があります。

町の大きな特徴である豊かな自然を保全しながら、各地区の機能や特性を踏まえ、町域の均衡ある発展と一体性が確保されたコンパクトで魅力ある土地利用を進めます。

土地利用構想

■エリア

①市街地エリア 都市基盤の整備や機能的な土地利用の配置、秩序ある民間開発の誘導に努めるとともに、空き家や未利用地の解消、まちなみ景観や防災に配慮した市街地整備を進め、人口定住・産業集積を図ります。

②集落エリア 良好な自然環境に恵まれた居住・営農環境を保全し、都市施設の整備や集落環境の形成など、日常生活の利便性・快適性・安全性の向上にも努めます。

③農地エリア 生産性の高い優良農地の確保を図るとともに、遊休農地※の活用や流動化の促進により、農地の有効活用を図ります。また、農地の持つ多面的機能を活用し、グリーンツーリズム※などによる交流人口の拡大にも努めます。

④山林エリア 自然環境の保全や美しい景観形成に配慮しながら森林の有効な利用を図ります。また、災害の未然防止と水源涵養のため、森林の保全にも努めます。

⑤河川 集中豪雨などに伴う河川災害を防止するため、危険箇所の河川改修や護岸の整備などを引き続き促進するほか、河川の水質や生態系の保全に努めます。

■拠点

⑥交通拠点 町内の鉄道駅2か所は、町民や来訪者が利用する玄関口として、活用と利便性の向上に努めます。

⑦教育拠点 「田上の12か年教育」による私立幼稚園、公立認定こども園（竹の友幼稚園）、小学校、中学校の一貫した教育を行うとともに、田上町交流会館や地域学習センター等の学習施設、体育施設との連携強化と機能の向上に努めます。

⑧産業拠点 既存の工業団地は、多くの人が就労する町の産業の中心として、今後とも積極的な企業誘致を行います。

【注釈】

※遊休農地：現在及び将来的に耕作の見込みがない農地のこと。

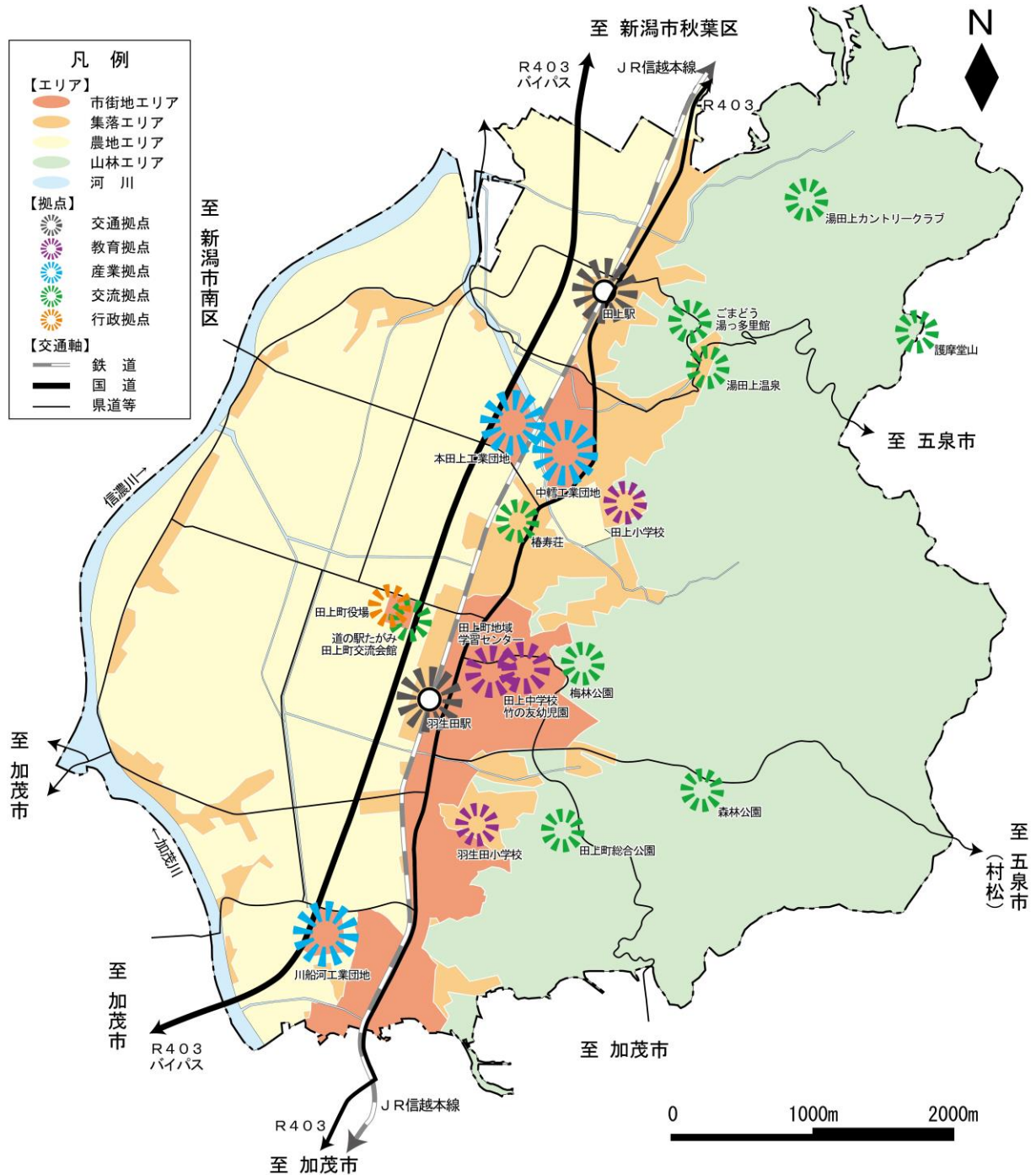
※グリーンツーリズム：農山漁村に滞在し農漁業体験を楽しみ、地域の人々との交流を図る余暇活動のこと。

⑨交流拠点

町独自の地域資源を活かした観光・交流の場として、整備と機能充実を図り、来訪者の増大と交流の拡大を目指します。特に、令和2年に開業した「道の駅たがみ」は、国道403号バイパスを利用する来訪者の玄関口として、町内各所へ誘導を図るため、機能充実に努めます。

⑩行政拠点

町役場及び商工会、保健福祉センター、田上町交流会館等が立地する町の中核拠点※として、各機能の充実と相互の連携による利便性の向上に努めます。



【注釈】

※中核拠点：中心となるたいせつなところ、重要な部分のこと。